

●岡山大学 医歯薬学総合研究科

「ARTプログラムによる医学研究者育成」の事例 <医療系>

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

若手のポストドクや能力の高いシニア大学院生（3年目、4年目など）をリーダーとし、少人数のジュニアの大学院生や学部学生を配置して研究ユニットをつくり、屋根瓦方式の教育を行った。将来リーダーになり指導的な立場に立つであろう優れた人材にとっては、教育する立場に立つ事が最も良い学びになるような体勢作りを試みた。

苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

TAやRAとして活動する時間は非常に長いにも拘わらず、制度上TA、RA経費を支出する時間数に制限があり十分に報う事が難しかった。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

TA、RAを研究の遂行への優れたインセンティブとして活用しきれなかった。優れたシニア大学院生に対してはTA、RAの経費支出の時間数や単価を高めていただきたい。